

目標使用年数
新築 100年

企画・設計段階から長寿命化を意識した設計を行い、建物の長寿命化を図ります。

県有建築物の長寿命化に向けた設計にあたっては、目標使用年数を想定し、大規模地震時後においても一定の補修により継続使用できるよう、必要な強度および韌性を確保することを基本とします。また、ライフサイクルマネジメントを考慮し、計画している施設の立地条件や用途・規模のほか、建築物の解体までを想定した材料の選定、維持管理の方法及び改修方法等にも配慮します。

基本的性能

長寿命化設計を行う上で特に重要な視点を下記の5つとし、施設の基本的性能とする。

1 高耐久性

構造躯体はもとより、仕上げ、設備の各々について耐久性を有するものとする。

2 可変性

想定される社会的要水準の成長や変化に対応できるよう、可変性を有するものとする。

3 更新性

道連れ工事が最小限となるよう、更新性を有するものとする。

4 維持管理性

維持管理業務を効率的かつ容易に実施するため、維持管理性を有するものとする。

5 省エネルギー性

建築物のランニングコストの削減および地球環境の負荷の低減を図るため、省エネルギー性を有するものとする。

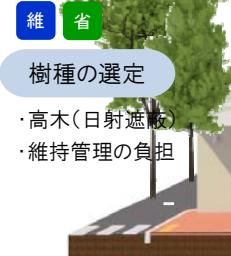
基準適用イメージ



耐
高強度コンクリート
かぶり厚確保

維
省

庇・ルーバー
日射と採光
・日射のコントロール
・空調負荷の軽減



樹種の選定

・高木(日射遮蔽)
・維持管理の負担

太陽光発電

省

維
更
可
十分な階高
・天井高
・設備機器配管

可
・可動間仕切り
・ユニバーサルレイアウト

維

メンテナンス不要・
低成本の建材
・光触媒塗装

メンテナスルート・
スペース

更
維

可

二重床
・フリーアクセスフロア

維
更
可

共同溝・ピット
・設備機器配管

省

雨水利用
排水再利用

